

ぬ、東宮には梅つぼのわかみや○一 るさせ給ぬ、いへばおろかにめでたし、世はかうこそはどみえきこえたり、

○按ズルニ、花山天皇ノ御父冷泉天皇ト、皇太子即チ天皇ノ御父圓融天皇トハ、異母ノ御兄弟ナリ、

〔日本紀略九條〕寛和二年七月十六日壬午、冷泉院第二○第二下恐脫皇子二字居貞親王、○三條、今日立親王爲

皇太子、

○按ズルニ、一條天皇ノ御父圓融天皇ト、皇太子即チ天皇ノ御父冷泉天皇トハ、同母ノ御兄弟ナリ、

〔一代要記十四後宇多〕頭書 太子熙仁親王、見伏後深草第二子、母玄輝門院、建治元年十一月五日爲皇太子、

〔神皇正統記伏見〕後嵯峨の御門繼體をば龜山とおぼしめし定めければ、後深草の御ながれいかがとおぼえしを龜山弟順の儀をおぼしめしけるにや、此君見伏を御猶子にして東宮にすゑ給ぬ。○中略。關東の輩も龜山の正統をうけ給へる事は玄り侍りしかば、近頃となりて世をうたがはしく思ひければにや、兩皇草、龜山の御流れをかはるぐすゑ申さんと、相はからひけりとなん、

○按ズルニ、後宇多天皇ノ御父龜山天皇ト、皇太子即チ伏見天皇ノ御父後深草天皇トハ、同母ノ御兄弟ナリ、又兩統更立ノコトハ、踐祚篇兩統更立條ニ詳ナリ、就テ看ルベシ、

〔日本書紀十五顯宗〕白髮天皇○清寧二年十一月、播磨國司山部連先祖伊與來自目部小楯、於赤石郡親辨新嘗供物適會縮見屯倉首縱賞新室、以夜繼晝爾乃天皇謂兄億計王○仁質曰、避亂於斯、年踰數紀、顯名著貴方屬今宵、億計王惻然歎曰、其自導揚見害、孰與全身免厄也歟、天皇曰、吾是去來穗別天皇○履中之孫、而困事於人、飼牧牛馬、豈若顯名被害也歟、遂與億計王相抱涕泣、不能自禁、億計王曰、然則非弟

子再從兄弟爲太